

## 会 議 録

1 会議名

令和元年度第3回上越市社会教育委員・上越市立公民館運営審議会委員会議

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 令和元年度事業評価結果について（公開）

(2) その他（公開）

3 開催日時

令和2年2月18日（火） 午後2時～午後3時20分

4 開催場所

上越市教育プラザ 研修棟 大会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：秋山美智代、池田洋子、江村奈緒美、小林榮、小林英子、佐藤ゆかり、杉原幸男、鈴木重行、惣塚泰次、高橋清美、土屋美枝、樋口嘉和、保坂和彦、松井和代、宮川久良、宮澤忠明、森田浩、渡邊恵美

・事務局：社会教育課 小嶋栄子課長、川上裕一参事、岩野俊彦中央公民館長、福山亮副課長、加藤英樹副課長、古川学係長、北澤卓哉係長、松井理江主任、丸田康德主任、武内あきつ主任、片所大河主任、加茂川真理主任、杉田博紀主任、池亀睦主事、北菜奈実主事、小川すみれ主事

8 発言の内容（要旨）

(1) 開会

(2) 保坂委員長挨拶

(3) 議事

①令和元年度事業評価結果について（公開）

— 資料 No. 1 に基づき事務局説明 —

池田委員：上越市美術展覧会について、シャトルバスの運行は土日のみだが、利用者はどの程度いたのか。

事務局：10月6日（日）、12日（土）、13日（日）、14日（月・祝）の4日間で、28人の利用があった。

森田委員：初めて高田公園オーレンプラザに行き、表彰式に参加した。社会教育委員などの紹介は一括して行い、受賞者インタビューに時間をつかっているかどうか。

オーレンプラザとミュゼ雪小町の2か所を見た。受賞者や制作者に作品について聞くことができる時間があれば、もっと作品に親しみが持てるのではないかと。

事務局：いただいたご意見は市展の運営委員会で検討したい。

保坂委員長：来年度は第50回を迎え、特別展示もあるとのことなので、また皆様から参加してもらえればと思う。

池田委員：謙信KIDSプロジェクトについて、応募人数が少ないために中止した講座はあるか。

事務局：定員割れした講座はあるが、中止となった講座はない。

渡邊副委員長：参加者の親子へのアンケートは、事業を評価するものとして重要な声である。おおよその結果をまとめて教えてほしい。

事務局：アンケートの結果は後日お伝えする。市のホームページに講座の様子の写真が掲載されているので、ご覧いただきたい。

小林（英）委員：委託事業には市職員は参加しているのか。講座の運営方法など、不適切と思われる点があった。参加し、見守る立場をとったらどうか。

事務局：全てではないが、講座の始めと終わりなどに顔を出すようにしている。

渡邊副委員長：上越教育大学の学生ボランティアの参加はどの程度か。

事務局：申し込み数で、延べ30人の応募があった。

保坂委員長：子供に人気のあるプログラミングの講座の雰囲気はどうだったか。

事務局：上越教育大学の教授、市社会教育指導員2人、市職員1人の体制で実施した。講座ではiPadを使用し、ロボットを動かすのだが、子供たちは楽しそうに、簡単にやっていて、機械の扱いに慣れているようだった。かえって、大人の方がついていけなかった。

プログラミングの講座は来年度も継続する。また、世界の文化の講座の回数を増やす予定としている。

鈴木委員：プログラミングの講座に参加した。人気のある講座なので、講座数を増やしてはどうかと思った。今後、小学校の先生がプログラミングの授業をやらなければいけないが、講座内に学校の先生も入れるようにすればもっと良くなるのではないか。

事務局：謙信KIDSプロジェクトは子供対象の講座であるので、学校の先生については、学校教育課に情報を伝え、対策を考えてもらえればと思っている。大学でも独自の講座があるようなので、連携できればと思っている。

講座については、これまでは夏休み中の活動が多かったが、近年の猛暑の傾向から、子供の安全を一番に考え、夏季の活動は原則屋内としている。秋の屋外での講座は台風などの影響を受けるが、休講することのないように、代替となる講座内容など工夫したい。

惣塚委員：春日区の元気の出るふるさと講座に参加した。開催日時について、月曜日の午前中は参加者にとって忙しく、厳しい日程だったと感じている。春日区の人口は多いが、参加者は十数人であり、募集方法を考えた方が良いのではないか。講座内容として、事前学習をしてから現地へ行った方がよいと感じた。また、3年目が終わった後の取組はどうなるのか気がかりである。

事務局：来年度の開催曜日や講座の組み立てについては、ご意見を踏まえて対応したい。元気の出るふるさと講座は平成24年度から実施しており、来

年度をもって、市内全地域で終了する。その後、第2弾として、もう1巡講座を開催することを計画している。絶え間なく講座を継続し、社会教育を推進して行く。

松井委員：例えば、三和区では昔からの人間関係ができているため、ボランティアガイドの活動を細々と続けている。春日区を見て、3年目になるが、まだ地域に貢献したり、イベントをしたりといった段階ではないと思う。もう1巡を考えているのであれば、来年度、無理に結果を出さずに、遊びをしながら人を増やして、仲間づくりし、次の段階へ進めたらと思う。来年度募集しても、参加者は少なくなると思う。

小林(榮)委員：春日区の参加者の中には、歴史の好きな人など、春日地区の方ではない人もいる。そういう方たちは、地域への貢献といっても、なかなか難しいだろう。地域に役立つ人づくりということでトータルに見ながら、3年目の意識付けには工夫が必要となる。

板倉区では、活動を続けた成果を感じた。また、課題も聞いた。高田区や春日区など、講座を遅く開始した地区は、早くから取り組んでいる地区の意見を取り入れて、次の活動へ繋げていってはどうか。

保坂委員長：元気の出るふるさと講座の参加者と地区の関係はどうなっているか。

事務局：高田区、春日区には、地区外からの参加者がいる。これらの地区では、地域の特徴、歴史、自慢できるところと言った切り口で講座を進めている。地区外からの参加者には、事業の目的を伝えながら、ご自身が住んでいる地区で取組を実践し、活躍してもらいたいという思いもある。市域に実践できるという意味合いもある。

池田委員：高田区では、来年度の講座に向けて公民館主事がすでに動いている。一生懸命に活動していることをわかっている。

保坂委員長：三郷区の講座が地域協議会と連携したことは元気の出るふるさと講座の1つの姿かと思う。三和区が3年経過後、観光ボランティア活動をしていることも1つの姿かと思う。講座受講後の出口の在り方を初めから意

識させるのはなかなか難しいのではないか。

② その他（公開）

- ・令和2年度の社会教育委員関連会議の日程について
- ・高田公園オーレンプラザの名称変更について
- ・公の施設の使用料改定について

(4) その他

(5) 閉 会

9 問い合わせ先

上越市教育委員会社会教育課

TEL : 025-545-9245 (内線 1260)

E-mail : shakaikyouiku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。